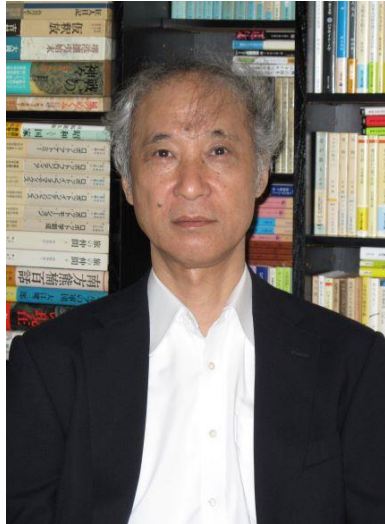


## 『かわ』から削除された文章

副理事長 阿部恭二

昨年亡くなった絵本作家加古里子の『かわ』という絵本がある。月刊「こどものとも」発行のこの絵本が最初に出版されたのは1962年7月1日で、手元にあるのは2017年4月1日発行の第85刷だから、半世紀以上にわたって読まれ続けているロングセラーである。



高い山から始まる水の流れが川になり、流れ流れて海に行くことを描いたもので、なつかしいと思えるタッチの絵が並ぶ。川を下る過程で「だむ」や「はつでんしょ」、「じょうすいじょ」、「しゅんせつせん」などと出会い、「どこまでも どこまでもみずの つづく うみ」に出るという内容である。作者が原稿を作成していた当時の下水道普及率は極めて低く、川を説明するうえでの一般的な施設にはなっていなかったであろうから、「げすいどう」は描かれていない。

興味を持ったのは、奥付（最後）のページに2016年7月付で83刷より24ページの文章を削除したとする作者の断わり書きである。削除されたのは、「まちの ごみや きたない みずがながれこんで/かわは すっかり よごれてしまいました。」という文章である。

削除の理由は、「原稿製作当時、敗戦戦災の余燼の中の復興活動の為、公害環境悪化、河川汚濁状況であった為、24頁にその点を文章として記載しましたが、半世紀後の現在、官公機関、生産企業の努力、市民公共環境意識等の結果、日本の『かわ』は本来の姿となったので除去して頂きました。」とある。

この断わり書きを読むと、最初に絵本を製作したときも、上記の文章を削除したときも。作者には「かわ」に対する強い思

いがあったことが窺える。だとすれば、子どもたちに長く読み継がれてきた作品ではあるが、作者の思いを汲んで、新たな「かわ」の絵本が書かれる必要があると考える。その絵本にはもちろん、「げすいどう」もしくは「げすいしよりじょう」が表現されてしかるべきであろう。

下水道展の開催が近づいてきた。今年のスイスイ下水道研究所にはNPOコーナーが設けられ、川に対する熱い思いを持った市民団体が複数参加する。加古里子の『かわ』について聞いてみようと思っている。

## 2019年度活動報告

### 高尾山下水道見学報告

理事 栗原秀人

平成31年2月8日の「山のトイレを考える」研究集会で事例発表のあった高尾山の下水道見学を5月17日（金）、当倶楽部会員14名の参加のもと、八王子市水循環部と東京都高尾山ビジターセンターの協力を得て実施した。参加者の頂上集合方法は、自主集合4人、稲荷山コース登山7人、6号路登山3人であった。

視察行程は高尾山頂：（15時30分）視察概要及び高尾山下水道概要説明⇒VC トイレ視察⇒私設排水設備を辿って1号路を下山⇒薬王院：高尾山公共下水道最上流人孔見学⇒公共下水道に沿い、マンホールポンプ人孔を開口見学しながら下山⇒ケーブル高尾山駅：公共下水道管減勢工説明⇒ケーブル乗車（車中から公共下水道管、減勢工見学）⇒ケーブル清滝駅⇒参道（公共下水道管に沿って）⇒京王高尾山口駅（17時30分）解散⇒意見交換会であった。

### ●ビジターセンタートイレと排水管

下水道計画時にはビジターセンターにバイオトイレが設置されていたため、下水道区域としなかったが、バイオトイレが処理能力、数等において不十分であったため、現在のトイレ等を排水設備として位置づけ、下水道に流入させることになった。



混雑するかつてのトイレ(説明パネルより)

繁忙期のみ解放される2階女子トイレを見学、洗浄便座に加え、男子児童用トイレ併設などの工夫が見られた。繁忙期には洗浄用水が不足することがあるとのこと。



1号路に沿って埋設又は露出された排水管に沿って薬王院まで下山した。



登山道沿いの露出排水管

### ●公共下水道

薬王院横公衆トイレ前に八王子市公共下水道最上流マンホールがあり、女坂に沿って下水管を埋設、ケーブル高尾山駅まで2か所のマンホールポンプを設置して汚水を流下させている。トイレ排水が主で、雑排水が少ないせいかマンホール蓋の腐食が進んでいるとのこと。ケーブル高尾山駅前、リフト駅舎からの汚水をマンホールポンプで流入させた後、ケーブル軌道敷内の下水管で、途中2か所の減勢工を経て、清滝駅まで流下させる。その後、街中の下水管を経て、流域下水道浅川水再生センターで処理されている。



トンネル内の公共下水道管(右壁上部)



マンホールポンプ設置人孔(腐食が進行)

## 研究集会「プラネタリー・バウンダリーと下水道」

(5月28日) 開催報告

理事長 佐藤和明

令和元年度の最初の研究集会は、測量地質健康保険組合会議室で43名の参加者を得て開催された。阿部副理事長による開会挨拶では、環境問題が地球の限界を超えつつある現在、下水道は何に取り組むべきなのか、本日の研究集会からヒントを得ていただければ、と言及された。

佐藤会員による基調報告では、プラネタリー・バウンダリーの問題設定の説明がなされるとともに、“下水道は地球環境に貢献できるのか”という問題意識のもとで書かれた「[私の下水道論](#)」(ホームページ会員論文図書館に所蔵)のエッセンスが紹介された。わが国の国土はかつてないほど富栄養の状態となっている。こうした状況を是正するためには下水道システムによる窒素・リンの処理、リサイクルが最も望まれる施策である。世界の地球環境学者はとくに地球の窒素サイクルを適正な状態に戻すため下水道の機能に注目しているとして、下水道システムの寄与の可能性について報告がなされた。

以上の基調報告に対して、3人の新進気鋭の講師の方々による関連発表がなされた。日本大学理工学部の齋藤利晃先生より、

「亜酸化窒素から考える窒素処理」の発表があり、温室効果の高い一酸化二窒素 (N<sub>2</sub>O) の発生を考えると窒素処理を水処理あるいは汚泥処理どこで行うべきなのかという課題がある等の発表がなされた。次に東京大学新領域創成科学研究科の佐藤弘泰先生より、「都市周縁の生活排水対策」の発表があり、新下水道ビジョン加速戦略の中での温暖化対策、栄養塩対策、等について説明がなされた。最後に国総研下水道処理研究室の田嶋淳室長より、「下水道処理における N<sub>2</sub>O 排出量削減に関する研究」の発表があり、窒素除去を目的とした高度処理法で N<sub>2</sub>O 発生量が低いという実証データに基づき、処理方式ごとの新しい排出係数が設定されたことが報告された。

最後に写真に示すように佐藤会員がコーディネーターとなり総合討論を行い、会場からの質問を受けた。これらの詳細に



については近々に研究会報告をホームページに掲載するが、プラネタリー・バウンダリーの問題に密接に関係してくる下水道における窒素・リンの処理、リサイクルは、地球環境保全の観点からなお重要な課題となると考えられ、水倶楽部では今後とも「地球インフラとしての下水道」の意義を追求していくという表明がなされた。

## 会員だより

### 酔童感話 第36話 阡人(せんじん)を目指そう！ その2

伊達萩丸

第2回東京オリンピックが近づいて来ました。オリンピックで少しは景気が良くなるのかな？などと思っていたが、6月上旬現在、日経平均は下落中。米国と中国の貿易摩擦で「世界の工場」である中国の景気が大減速。併せて日本の景気もパツとしない。

水倶楽部の皆様は、ほとんどの方が「一度現役を引退」された方が多いと存じますが、現時点でも最年少？の萩丸の年金受給開始には15年以上ある。これは困った！という訳で、前回

からの続きで、「自分の老後資金の確保の為に！」鋭意阡人を目指しています。

前回時点で、暗号通貨ビットコイン (BTC)が、一時期1BTC=約30万円に下落。萩丸はなけなしの定期預金を切り崩して購入しました！

で、今は1BTC=約80万円。2.5倍以上の価格です。ちょっと安心。というか、かなり優良物件だった様で(＃.＃) 阡人への第一歩。

参考：BTC/JPY チャート。

<https://cc.minkabu.jp/chart>

「BTC/JPY のチャート(左上)です。3ヶ月以上のロングスパンで見てください。右肩上がりです。」

さて、オリンピックに先立ち、政府も JR 東日本の SUICA や、セブンイレブンのナノコを、暗号通貨でチャージ出来る様にする方向。BTC が、国際デファクトスタンダードになれば、海外旅行時にいちいち現地通貨に両替する必要がなくなる。



こうしたデジタル通貨での支払いが一番進んでいるのが、お隣の韓国らしい。また、中近東でも同様らしい。何故か？と思うに「自国の通貨が信用出来無いから」らしい。

日本は、突然クーデター勃発、既存通貨「日本円」が突如使えなくなる、と言う可能性が少ないが、韓国は北朝鮮と実質「現在も戦争状態」。下手すりゃ国が無くなる。紙幣は兌換紙幣だから、母国が無くなれば「ただの紙切れ」。少額の買い物を行うのに便利な様に暗号通貨が普及したというのが実情らしい。

最近では「お財布携帯」として、スマホにクレジットカード等を連携させ、出歩くのには「スマホだけ」と言う人が多い。欧米では手の甲に IC チップを埋め込み、財布代わりにしていたりする。ただ、萩丸自身は、「支払いが便利だから」と「使いすぎてしまう」と言う気がしてならないが・・・。今現在が、紙幣の印刷技術から、デジタル暗号技術への過渡期にあるのですね。BTC の普及とともに、さらなる価格上昇を期待しています！阡人を目指して！

## 編集幹事のあと整理

- 今号は執筆いただいた活動報告が二件重なりました。さらに6月21日には通常総会が予定され、その報告と新役員紹介は次号に執筆いただく予定です。
- 会員だよりコーナーへの投稿を募集しています。投稿はいつでも受け付けます。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月



レバノンの首都ベイルートの地中海